

One purpose

FOR BETTER COMMUNICATION



同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY



194

2018 April

特集

生まれ変わった ラーネッド記念図書館

同志社人訪問

避難所の景色を変える！

命を守る「暖段はこベッド」を開発・普及推進

Jパックス株式会社 代表取締役社長

水谷 嘉浩さんに聞く

COVER INTERVIEW
My Purpose 挑戦する人

New!

My Purpose 挑戦する人
を動画でCHECK!



2 特集 生まれ変わった ラーネッド記念図書館



7 Seminar ～ゼミ探訪 学びの時間～

理工学部化学システム創成工学科
計測分離工学研究室：塚越 一彦



9 同志社の研究は今

実証に基づく心理・社会的トリートメント研究センター
センター長 武藤 崇（心理学部教授）

11 2018年度 予算編成方針について

12 同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金のご案内

13 INFORMATION

新任教員紹介／退職教員／「同志社大学カード／同志社大学学生カード」の会員を募集しています！／
特定寄付奨学金募金協力者ご芳名／本学教員の執筆図書紹介／WEBでCHECK! 課外活動総合
WEB サイト「D-Live」／参加者募集

18 INTERVIEW ～同志社人訪問～

Jパックス株式会社 代表取締役社長
水谷 嘉浩さんに聞く



21 My Job, My Life ～私と「仕事」～

北村 政記さん（2004 年 文学部国文学科卒業）

23 COVER INTERVIEW My Purpose ～挑戦する人～

中平 大翔さん
（理工学研究科情報工学専攻 1 年次生）



お知らせ

「One Purpose」は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションを図ることを目的として発行しています。
2018年度より4月・7月・11月の年3回の発行となります。同志社大学の最新情報は随時ホームページ
でお知らせしております。ぜひご覧ください。▶ <https://www.doshisha.ac.jp>

※今号に登場する学生の年次などは取材時のものです

生まれ変わった ラーネッド記念図書館

—— 新しい「知」のプラットフォームの提案 ——

次代に向けた新たな「学びの拠点」を提供するために

京田辺校地のラーネッド記念図書館がリニューアルオープンしました。

1Fには刺激に満ちた交流と互いの啓発を促し、多彩でクリエイティブな発信を支える

最先端のスペース・設備を備えたラーニング・コモンズを新設し、「学びのアウトプット空間」を構築。

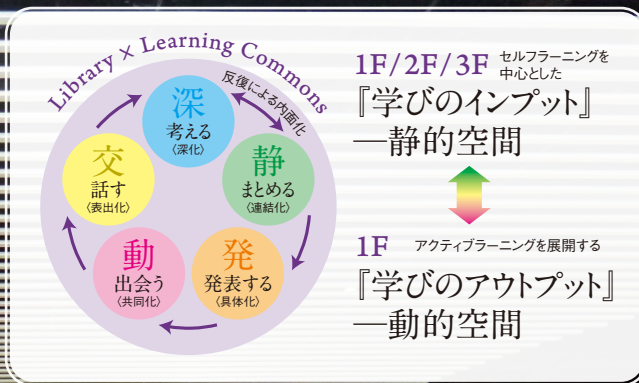
1F/2F/3Fは主体的に情報や知識を得ることができる

グローバル学修支援機能も完備した新しい図書館機能として「学びのインプット空間」を展開しています。

この「新しい『知』のプラットフォーム」を積極的に活用してください。

*Learn to live
and
Live to learn*





LIBRARY COURT

LIBRARY



D・W・ラーネッド

アクティブラーニングとグローバル学修支援機能を融合 学生の主体的な学びを多角的に支援

京田辺校地にあるラーネッド記念図書館の館名は1920年に同志社大学の初代学長に就任したD・W・ラーネッドに由来します。米国コネティカット州に生まれた彼はイエール大学大学院を修了後、1875年にアメリカン・ボード宣教師として来日。新島襄の志を支え、草創期の同志社の教育に尽くし、52年間にわたって同志社に在職しました。D・W・ラーネッドは今日に受け継がれる「同志社の精神」を育み、広めた一人であり、日本の学術の発展にも大きく貢献した偉人として知られています。その精神を象徴するのが、ラーネッド記念図書館の正面に高く掲げられた「LEARN TO LIVE AND LIVE TO LEARN (生きるために学び、学ぶために生きる)」というD・W・ラーネッドの愛誦の言葉です。



ラーネッド記念図書館が開館したのは京田辺校地開校と同時の1986年。主に1、2年次生を対象にした全面開架式の学習図書館としてスタートしました。1988年に両校地図書館でオンライン目録検索サービスを開始。1994年の工学部・工学研究科(現 理工学部・理工学研究科)の京田辺校地移転に伴い、今出川図書館から約3,000冊をラーネッド記念図書館に移行し、さらに新規に約3,000冊を購入。1997年にマルチメディア・ライブラリーを開設し、1998年にPCコーナー、1999年にWeb版DOORSを稼働し、ホームページに貴重書デジタルアーカイブも公開、2010年にはCo☆labo(学習施設)を開設しました。そして、2018年にアクティブラーニングとグローバル学修支援機能を備えた新しい「知の拠点」としてリニューアルオープンしました。

生まれ変わったラーネッド記念図書館が掲げるコンセプトはラーニング・コモンズとライブラリーが機能的に融合した「新しい『知』のプラットフォームの提案」です。1Fをラーニング・コモンズを中心

としたアクティブラーニングを展開する「学びのアウトプット—動的空間」、1F・2F・3Fをセルブラーニングを中心とした「学びのインプット—静的空間」と位置付けています。さまざまなヒト・モノ・コトや最新の情報に出会い、クリエイティブな刺激に満ちた交流から得た閃きやアイデアについて、知識をインプットしながら熟考することによって深化させ、ロジカルな裏付けを持つ発想として具現化し、これらを広く発信することができます。

1Fのラーニング・コモンズには、多彩な機能を備えた活用自在のプレゼンテーションコート、個々の多様な相談に即応するアカデミックサポートエリアなど協同学習や交流を支援する機能があり、2Fは図書館への入口であり情報検索や資料収集の相談ができるライブラリーホールや、言語・異文化理解のためのグローバル・ラボなどで構成。3Fは知識を深めるための個々に集中できる学習スペースと、想像を解き放つグループ学習スペースになっています。学生の主体的な学びを多角的に支援し、新たな創造を促進するラーネッド記念図書館で新たな学びの世界を実感してください。

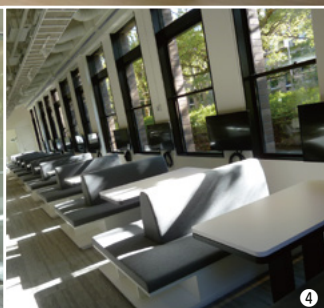
1 F

学びのインプット/アウトプット

LEARNING COMMONS

ラーニング・コモンズ

ポジティブな交流とアクティブな発信の新たな拠点



- ① **プレゼンテーションコート** 多彩なイベントに柔軟に対応し、発信と交流を促す開放型のフリースペースです。例えば、専用レールを用いて天井からポスターを吊り下げれば、ポスターセッションや展示会場として活用できます。机を撤去して全面を使用すれば、オーソドックスな講演会なども開催でき、ホワイトボード機能を備えた壁面の3面スクリーンによるインパクト抜群のプレゼンテーションも行えます。
- ② **アカデミックサポートエリア** ここに常駐しているアカデミック・インストラクターや大学院生スタッフが学生の学びに関する相談にきめ細やかに対応し、継続的にサポートしてくれます。例えば、個人の場合は発想法や考え方、資料のつけ方、的確なライティング、効果的なプレゼンテーションの手法などをアドバイス。グループワークを行う中で生じる技術的、現実的な課題に対しても専門的な視点からチュータリングします。
- ③ **ワークショップルーム** ワークショップなどに活用でき、自発的な学びを支えるアカデミックスキルを実践的に修得できる講習会も開催されるエリアです。ホワイトボード機能を備えた間仕切りで仕切られた2つの部屋で構成されています。仕切りを取り除けば、一つの伸びやかなスペースとして利用することもできます。
- ④ **インフォダイナー** 寛いだ雰囲気の中で仲間と打ち合わせたり、新たなアイデアを生み出すための議論ができるスペースです。ボックス席と昇降式のテーブル席を設置しており、ディスプレイ（一部、電子黒板機能付）に必要な画像を映したり、電子黒板に自由に書き込みをしたりしながらミーティングを深めていくことができます。
- ⑤ **グループワークエリア** カジュアルな小セミナーを開催するのに適したエリアです。人数的には数人から十数人に対応する会場をセッティングすることができます。プロジェクターや天井のフレームを用いたポスターセッションも行えます。机を組み合わせれば、ブレンストーミングや3〜4人ずつの分担ワーク、大きな用紙を広げて作業する時に便利なスペースも創出できます。また、畳エリアでは、畳型の台座を寄せれば4.5畳の間になり、中を抜いて机を入れれば掘りごたつにできるなど様々な和の空間として活用できます。日本文化を体感する生け花やお茶の実習の場など京都ならではの催事にもふさわしいエリアです。
- ⑥ **ラウンジ** 1Fには軽食をとったり、休憩しながら楽しいトークができるラウンジも設置されています。

2F 学びのインプット

それぞれの学びのスタイルに応じた個人学習を支援

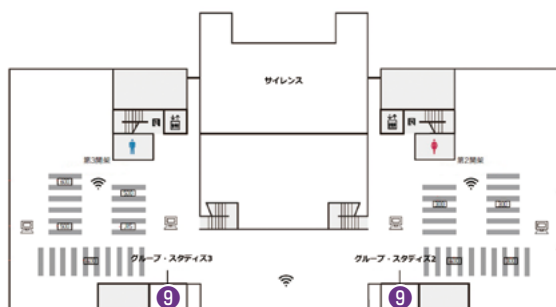


⑦ライブラリーホール 図書館への入口であるライブラリーホールにはメインカウンター、レファレンスカウンター、PCコーナー、DOORSコーナーなどが設置されています。入口付近にあるブックウォールは、週ごとに入れ替わる新刊本や旅行ガイドブックが並んでおり、デジタルサイネージでは、図書館講習会の案内などをチェックすることができます。

⑧グローバル・ラボ「語学学習に役立つ・異文化理解を深める・日本文化を学ぶ」の3つをコンセプトにした学習エリアを新設しました。多読用資料や語学試験対策教材、留学に向けた学びをサポートする資料をはじめ、タッチパネルで海外の新聞・雑誌を閲覧できる海外新聞閲覧端末や、発音訓練ソフトが使用できるスピーキングブース、BBC・CNNといった海外ニュースを視聴できるAVブースも設置しています。他に、参考コーナーや雑誌コーナーなどもあります。

3F 学びのインプット

リラックスできる空間で知識を深め、想像を解き放つ



京田辺の美しい自然を眺望できる窓側席 (2F/3F) に座れば、心も安らかなリラックスした雰囲気に抱かれながら集中して学びを深め、知識を広めていくことができます。必要部分のみを効率的に照らす最新の調光・調色機能を取り入れたタスク・アンビエント照明が「学びのインプット」を応援します。「サイレンス」と名付けられたきわめて静かな学習スペースも特設されています。個々に仕切られた特別仕様のパーソナルな空間です。なお、全館でWi-Fiが使えるように配慮されていますので、各自の学びのスタイルに合わせた学習席を選ぶことができます(ただし、「サイレンス」など一部PC持ち込み不可のスペースもあります)。

⑨グループ・スタディーズ プレゼンテーションなどの準備に最適なスペースです。プロジェクタやホワイトボードなどの機器も完備しており、周囲を気にせず議論を活発に交わし、アイデアを具現化することができます。事前にメインカウンターで申し込んでください(予約も可能)。ゼミ単位でのグループワークやレジュメ・発表資料などの作成の場としても活用してください。



図書館長※
こやま たかし
小山 隆

(社会学部社会福祉学科教授)

学習支援・教育開発センター所長
おおしま かよこ
大島 佳代子

(政策学部教授)

次代に向けた「知の新拠点」を最大限に活用してほしい

小山 ラーネッド記念図書館の開設は1986年。当初は1、2年次生のための学習図書館でした。その後、工学部・工学研究科(現 理工学部・理工学研究科)の京田辺校地全面移転を契機に担うべき役割が変化し、さらに本年、図書館にラーニング・コモンズを融合した学びの新拠点として生まれ変わったわけです。

大島 ラーニング・コモンズとは、学生の自発的な学びを多角的に支援する場所や施設のことです。近年、PBL(課題解決型学習)などが注視され、学習の形態に変化が生じ、日本でも次代に向けて積極的に取り入れられるようになってきました。

小山 2階の図書館入口のライブラリーホールでは、新刊書籍などをブックウォールで速やかに確認でき、PCコーナーでは本学所蔵の資料や文献、さらに国内の論文などの閲覧も可能です。3階には静謐な環境の中で集中的に学べるサイレンススペースなどもあり、ニーズに即応した多様な学びのスタイルを自由にチョイスできるようになっています。また、席数を調整することによって個別スペースの拡大も図りました。

大島 1階では発見学習、問題解決学習、グループ討論、ディベートなど、学生のアクティブラーニングを積極的に支

援します。アカデミックサポートエリアでは、アカデミック・インストラクターや大学院生で構成されたラーニング・アシスタントがレポートやプレゼンテーションなど様々な学習相談に応じます。入学間もない1年次生にも、積極的に活用してほしいですね。ワークショップルームやグループワークエリアはグループ学習に最適です。多彩なイベントが自在に展開できるプレゼンテーションコートの壁面には3面のスクリーンを設置し、外部からの可視化も図りました。発表している姿を第三者に見られることが良い刺激となり、能力を高めてくれるからです。ボックス席と昇降式のテーブル席を設置したインフォダイナーも活発な討議や発案を促してくれます。

小山 1月のオープン以来、すでに本館には日々多くの学生が訪れ、それぞれの目的に即して全館を活発に活用しています。当初の予想をはるかに上回る学生数であり、このような学びの新拠点が必要であったことを改めて実感しています。本格的な探究は各学部で行われているわけですが、それ以外の交流や議論、発信などの場として大きな可能性を秘めていると考えています。各学部横断型の研究発表などにも積極的にご利用いただければと願っています。

大島 ラーニング・コモンズは当センタ

ーが運営を担当していますが、2018年度は学習支援検討部会を立ち上げ、京田辺校地の特性を生かした学習支援を委員の先生方に具体的に検討していただきます。これまでに良心館ラーニング・コモンズで成果をあげてきたアカデミックスキルセミナーや学習支援イベントも貴重なコンテンツです。また、両校地をライブ映像で結んだ共同催事も構想しています。双方向で参加者がディスカッションやプレゼンテーションなどを行うイベントです。これは両校地を一体化する画期的な試みになると期待しています。

小山 図書館とラーニング・コモンズを一拠点に設置することによって、学びのインプットとアウトプットが統合され、巧みに循環することは良いことであり、成果に期待を寄せています。必要な書籍なども貸出手続きを行うだけで1階に持ち込み、直ちに活用することができました。

大島 それはラーネッド記念図書館の優れたポイントです。階上に行けば書籍や資料があるというのは非常に便利です。

小山 セルフラーニングとアクティブラーニングが融合し、最先端の機能も完備した「知」のプラットフォームが完成したわけです。これを在学生在がそれぞれの学びのスタイルに即して最大限に活用してほしいと心から願っています。



ゼミナール

Seminar

ゼミ探訪学びの時間

理工学部化学システム創成工学科

つかごし かず ひこ

計測分離工学研究室：塚越 一彦 [理工学部化学システム創成工学科教授]

国内外の最先端の研究に目を配り 探究から得た新たな成果を 世界に問う気概を持って 明るく楽しく実験に挑んでほしい

世界初の流体现象を発見
その解明と機能発現に挑む

塚 越一彦教授の研究テーマは「計測分離（分析化学）」。自然界から新たな情報を読み出すことによって最先端の研究開発を推し進め、社会の伸展に貢献する重要な学問領域である。「計測分離工学研究室」では、特にマイクロ空間（髪の毛ほどの太さ：約50～100ミクロンのキャピラリー・毛细管）の流体挙動を対象にした流れ分析（フローアナリシス）の探究に多角的な視点から取り組んでいる。その成果が流体化学の常識を根底から覆し、学界にセンセーションを巻き起こした「管径方向分配現象（Tube Radial Distribution Phenomenon: TRDP）」

という世界初の画期的な発見である。極細空間にある種の混合溶液を流し、一定の圧力を加えると、内側と外側の各相に二つの流れが生まれ、液-液界面が出現する。界面が動的で、しかも等速で移動し、溶媒がきれいに分化するのが大きな特徴となっている。

この界面現象を解明し、様々な学問領域および各業界に役立てるために、2012年に塚越教授をセンター長として「管径方向分配現象研究センター」が設立された。その後、本研究は昨年新たに立ち上げられた「バイオマイクロフルイディクサイエンス研究センター」に引き継がれ、研究が続けられている。「流体力学や化学、工学など様々な視点から探究しています。まず目指したのは学術的な体系化です。新たに発見

した現象であり、これが何よりも重要です。前研究センターでの5年間で大まかなところは見えてきました。次は技術的な体系化、この界面を利用した機能発現に挑みます。分離、混合、反応などの方法による応用研究です」。可能性を秘めた分野はエネルギー、環境、医学・医療、創薬、新規学問領域、新技術開発など多岐にわたる。

塚越研究室のモットーは「明るく、楽しく、世界を意識しながら個々のテーマに取り組む」。国内外の先進の研究に目を配り、自らのポジションを学生というよりも一人の新進の研究者と位置付け、自身の学術論文を世界に問う気概を持って果敢に挑んでほしいという。各自の研究テーマを結実させるためには、関連する文献や情報を的確に収集して深く理解し、あくなき探究心を持って研究実験を行い、得られた知見を発表し、これに対する忌憚のない意見や指摘を糧にしなければならない。そのために、研究室の一角には毎週行われる各学生の研究発表に対する多彩なレスポンスを付記したシートが掲示されており、多角的な考察の一助になるように配慮されている（写真下）。



また、思考力の練磨を最重視する塚越教授は「疑問のポケット」を提唱している。日々の勉学の中で疑問を抱いたり、少しでも不思議だと感じるものがあれば、このポケットに入れ、時々取り出して熟考する。これを繰り返すことによって考える力を養うことができるからである。「これは実験でも同様です。私が学生の頃に、過去の論文から実験結果を提示した時、恩師に『論文に書いてあっても、実際にやってみないと分からないじゃないか』と指摘されました。先生は既存の論文よりも学生が試みた実験結果の方を評価してくれたのです」。その言葉で勇気づけられ、これが研究者の道を進む原動力になったとふり返る。

塚越先生は学生の自主性を大切にしながら細やかに見守っていただけるので、伸びやかな気持ちで研究テーマに打ち込めています。
博士課程(前期)2年次生 山田 健斗(けんと)さん

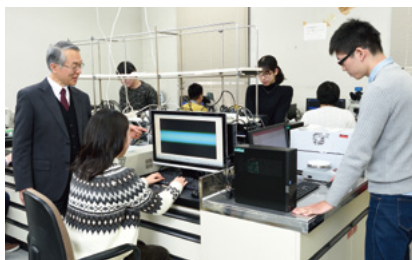
留学生なのでホームシックになることがあるのですが、塚越先生に「大丈夫?」と心配りしていただき、本当に感謝しています。
博士課程(後期)学生 韓 氷(かん ひょう)さん

研究に行き詰まった時、的確に方向性を示唆していただけるので、非常にありがたい。塚越研究室で特に学んだことは「未知の事象への対応力」です。
博士課程(前期)1年次生 森 龍輝(りゅうき)さん

先生や先輩から教えてもらうだけではなく、自分で多角的な視点から熟考することの大切さを塚越研究室で実感しています。
4年次生 松下 千紘(ちひろ)さん

研究の成果を得るには、粘り強い努力と膨大な時間が必要だということを学びました。それが、やりがいや達成感につながります。
4年次生 瀧川 琴予(たきがわ ことよ)さん

各自の実験に打ち込み その中で思考力を鍛え抜く



現 在、計測分離工学研究室には大学院生が13人、学部4年次生10人(男性19人・女性4人)が所属している。博士課程(後期)の韓氷^{かんひょう}さんは中国吉林省の出身である。「日本の化学工業の分野は世界の最先端に位置しており、最高水準の技術力を誇っています。また、中国にいた頃から同志社大学は卓越した大学だと聞いており、自国の大学で学んでいた応用化学(分析化学専攻)をさらに深く研究するために、大学院に進学しました。当初、日本語の語学力が心配だったのですが、塚越先生から『大丈夫ですよ』との返信メールをいただき、安心して受験することができました」。世界に先駆けて塚越教授が発見した「管径方向分配現象」の研究は素晴らしく、非常に充実した日々を過ごしていると語る。研究論文のテーマは「食品中の添加物の分離」で、有害物質などの分析を試みている。帰国後は大学の教壇に立ち、留学を希望する学生たちのサポートも行い、食品分野で健康保全に貢献する研究に取り組みたいという。

博士課程(前期)2年次生の山田健斗^{けんと}さんは、身近な物質が他と反応してまったく異なるものに変化する現象に興味を抱いたのが、化学の世界に目を向けるきっかけになったという。以来、化学が大好きになり、化学システム創成工学科に進学した。計測分離工学研究室を選んだのは、学部3年次生の時に本研究室が世界初の先進独自の研究を行っていることを知り、強く惹かれたからである。「計測分離(分析化学)は他に類を見ない研究なので、関連する文献や情報も少ない。この点が難しいところです。本研究室に所属した当初は先生や先輩の助言や指導の通りに実験などを試みていたのですが、博士課程(前期)の1年次生になった時点で頼りにしていた先輩たちが修了し、これからは自分で熟考し、自力で取り組まなければ、前へは進めないということを実感しました」。結果的に、これが塚越教授が最重視している思考力を鍛えるのに役立ち、「一つの物事に多面的にアプローチする大切さ」を学ぶことができたという。

中学時代から化学の実験が大好きで、兄の影響で関西に親近感が生まれ、本学の化学システム創成工学科に入学したと語るのは、博士課程(前期)1年次生の森龍輝^{りゅうき}さん。彼も山田健斗さんと同じように化学変化に魅了されたという。塚越教授のことはホームページの情報などで知り、関心があったが、研究室選びの時の研究発表で世界初の研究概要を聞き、「これは面白そうだ!」

と直感し、本研究室に所属した。学びの一環として同じ研究室の仲間たちと各自の研究テーマに関連する論文などを探出し、それにからめて発表する勉強会「雑誌会」も開いている。現在取り組んでいるのはシミュレーションソフトを用いた特異的流体の挙動の再現。まだ、具体的ではないが、将来は化学メーカーの研究開発部門か、プロセスエンジニアリングの分野に進みたいと考えている。

化学と工学は日本の伸展を担う分野であり、これを深く学ぶために化学システム創成工学科を選択したと語るのは4年次生の松下千紘^{ちひろ}さん。塚越教授の画期的な研究に魅了されて本研究室に所属した。実験は成果をあげるのに苦心するが、それだけに目指す結果が得られた時の感慨は格別だという。塚越教授の非常に細やかな指導も自分の成長に大きく役立っていると感じている。大学院でさらに専門領域の研究に打ち込む予定である。

4年次生の瀧川琴予^{たきがわ ことよ}さんも大学院に進み、自分を最も活かせる分野を見極めたいと考えている。1年次生の時に塚越教授の教えを受け、その人間性に魅了されて本研究室を選んだ。「実験は忍耐が問われますが、その中で努力することの大切さを学びました。研究室の先輩たちは誰もが優しく、親身になって助言していただけるので、心から感謝しています」。現在、卒業論文の仕上げに追われる日々を過ごしている。

効果が実証された心理療法の開発・普及を推進 日本初の国家資格・公認心理師の活躍も注視

精神疾患は厚生労働省が重点的な対策が必要と判断した五大疾病の一つになっており、実際に有効な心理療法へのニーズが高まっている。このような現状に即応し、その開発と普及を図る「西日本」の中心的な拠点を目指して探究を続けているのが、実証に基づく心理・社会的トリートメント研究センター（Center for Wing of Empirically Supported Treatments；「実証に基づくトリートメントの翼」という名称の研究センター；愛称はWEST研究センター）である。名称にも冠されているように、臨床効果の実証を最重視し、人々が安心して受けられる心理療法を提供するために、優れたサイエンティスト・プラクティショナーの養成と支援にも積極的に取り組んでいる。

実証に基づく心理・社会的 トリートメント研究センター

むとう たかし
センター長 **武藤 崇**

【心理学部教授】

1992年筑波大学第二学群人間学類心身障害学専攻卒業、1998年筑波大学博士課程心身障害学研究科心身障害学専攻修了。2010年より同志社大学心理学部／大学院心理学研究科教授、2011～2015年には東京大学医学部附属病院22世紀医療センター腎疾患総合医療学講座客員教授、2017年からは名古屋市立大学大学院医学研究科客員教授。また、同志社大学心理臨床センター（継志館；新町今出川下ル）の指導相談員も兼務し、地域のメンタルヘルスの向上にも貢献している。そのような多忙なスケジュールの中でも、体力・気力の維持のために、ジョギングを欠かさないとのことである。



アメリカでは実証を徹底的に追求

欧米では大規模な心理・社会的トリートメントの開発や普及が重要視され、その効果検証に積極的に取り組んでいる。特に顕著なのはアメリカである。他国に先駆けて精神疾患の治療に対する保険適応が認可され、厳格な実証が徹底的に推し進められてきたからである。何よりも成果(行為)を最優先するアメリカならではのプラグマティズムも大きく影響している。これに比して日本では効果検証があまり行われておらず、医療・教育制度の施策立案や改定も限定的であり、セラピストの絶対数も非常に不足した状況が続いてきた。しかし近年、厚生労働省は従来の四大疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病)に加えて精神疾患を国民に広く関わる疾患と判断し、効果実証に裏付けられた心理・社会的トリートメントへのニーズも年々高まっている。このような現状に対応するために、国立研究開発法人－国立精神・神経医療研究センター内に認知行動療法センターが開設され、本学も2011年に実証に基づく心理トリートメント研究センターを設立。この研究を継続するために、2015年に名称に「社会的」を付加した本センターが誕生した。

認知行動療法(CBT)は、科学的心理療法の総称であり、行動分析学(臨床行動分析)を専門領域とする武藤崇センター長は、新世代の認知行動療法(第三世代の行動療法)の代表的な療法の一つであるアクセプタンス & コミットメント・セラピー(ACT)における日本の第一人者である。「一般的に、心や考え方が変われば、行動も変わる、と考えられています。しかし、その発想自体が、心理的な問題の一部になっている場合が少なくありません。例えば、うつ病を治すためには、まずは落ち込んだ気分を『晴れやかに』する必要がありますと考えがちです。しかし、実際に問題なのは、日常生活に必要なさまざまな行動ができなくなっていることの方です。そして、落ち込んだ気分を変えれば、そのような行動ができるようになるとは限りません。逆に、ちょっとした行動をすることで、落ち込んだ気分が『変わる』こともあるのです」。あくまで、重要なのは、「常識」ではなく、再現可能な科学的根拠(ときに「常識に反する」事実)であると武藤崇センター長は強調する。

「西日本」における中核を目指す

本センターは実証に基づく心理・社会的なトリートメントの開発と普及を推進する「西日本」における中核を担うことを目的としており、愛称の「WEST 研究センター」も、これを意図したものである。「事例研究→一事例の実験デザインを用いて系統的な追試→比較対照試験→無作為化比較試験」という一連の心理療法のボトムアップ的な開発を行っている。

また、それらの研究を可能にする方法論の普及促進も目指している。そのようなプロセスを明示することは、本センターの果たすべき大切な役割であると考えているからである。

普及における重要なミッションとして掲げているのがサイエンティスト・プラクティショナーの養成と支援である。「プラクティショナーとは、実践家のことです。私たちは身体・心理・社会の相互作用を科学者として理解し、しかも実際に臨床ができる有能な人材を次代に向けて輩出し始めています。研究開発だけをする人や治療の現場で技術者として心理療法を行う人はいるのですが、両方を兼ね備えて、その効果を冷静に検証もできる人はきわめて少ないのが現状です。そのような人材を育成するのは非常に時間も労力もかかることですが、同志社の『良心教育』としてチャレンジしなければならないことだと考えています」。これは本学の心理学部の使命でもあるという。



貴重な研究成果を継続的に発信

多岐にわたる探究と検証から得られた貴重な先端情報を継続的に広く発信することにも本センターは力を注いでいる。数多くの研究成果は国内外の学術会議などで発表し、学術論文や図書、ホームページでも公表。さらに、シンポジウム、講演会、セラピストのための研修会なども開催している。例えば、昨年度は特別シンポジウムとして、良心学研究センターとの共催で「牧会カウンセリングにおけるアクセプタンス & コミットメント・セラピー(ACT)の可能性：キリスト教と科学的心理療法との接点」を開催。臨床心理学講座や公開講座なども実施。本年度も8月下旬に武藤崇センター長を大会長とした日本行動分析学会(於;良心館)との共同シンポジウムも予定している。

「今年のトピックスの一つは、心理学の分野で日本初の国家資格となる『公認心理師』の第1回目の試験が行われることです。公認心理師法は2015年に議員立法によって成立し、昨年度に施行されました。保健医療、福祉、教育などの分野で心理学に関する専門知識や技術を生かし、社会に貢献することになります」。国家資格を持つ公認心理師が現場に入ることによって、日本の精神疾患の治療でも実証が注視され、それが次第に加速されるのではないかと武藤崇センター長は期待を寄せている。

2018年度 予算編成方針について ∞

2018年度予算編成方針は、法人の予算編成方針に基づき、2017年11月9日の大学予算委員会および大学評議会で審議のうえ決定されました。この方針に基づき予算編成を行い、一層の教育研究環境の維持・充実を進めてまいります。なお、予算の詳細については次号に掲載予定です。

景気の回復基調はいざなぎ景気を超える長さとなったとはいえ、その実感は乏しく、さらに政治的リスクへの懸念からも世界経済の先行きは不透明感を拭えない状況にある。そのような環境下、日本全体の活力をあげるため東京一極集中からの脱却を目指す国の地方創生に係る施策は、経済面のみならず直接・間接に多岐にわたり、私立大学経営も例外ではない。大規模私立大学に対する経常費補助金の配分基準や大学等の設置に係る認可基準の厳格化への対応をはじめ、私立大学は自らの規模や財政状況、学生獲得力を勘案の上、一層戦略的な大学経営を迫られる状況にある。本学は、教育の質をさらに高め、これからも社会に有為な人物を養成、輩出する使命を果たしていかなければならない。

2018年度は、「同志社大学ビジョン 2025—躍動する同志社大学—」（以下「ビジョン」という。）へのさらなる前進のため、2017年度に募集を開始した「2025 ALL DOSHISHA 募金」を強力に推進し、教職員、卒業生、在学生父母といった同志社大学に関わるすべての人の一体感を醸成し、財政の安定化を目指す。教学面では、「ALL DOSHISHA 教育推進プログラム」を通じてビジョンおよびその中期行動計画で掲げている施策を促進する他、「同志社大学 EU キャンパス」の本格的開設準備を進める。また、博士課程教育リーディングプログラム（GRM）事業の総仕上げを進め、補助事業期間終了後の事業展開と卓越大学院プログラムへの取り組みに繋げる。

教育研究環境および大学運営の面では、インフラ系情報システムのリプレースを進めるほか、共通学術資料（高額資料および電子化資料）を安定的に整備するための方策を講じる。学生支援の面では、学生寮の今後のあり方について、寮政策の基本方針に基づき整備に向けて検討を進める。また、共同利用・共同研究拠点「赤ちゃん学研究センター」のデータプラットフォーム拠点形成事業への主体的参画などを先例として、他機関との連携事業を積極的に推進する。さらに、ブランド戦略の一環としての情報発信の面では、モバイル端末や SNS への対応を意識したホームページのリニューアルや「同志社大学案内」の改訂を進める。

収入面では、学生生徒等納付金で入学生学費の改定および過年度の学費改定による年次進行での増収を見込む。学部入学者数は文部科学省から認可を受けた入学定員とするとともに、入学志願者の安定的確保や補助金、寄付金、受託事業収入など外部資金の増収についても引き続き積極的に取り組んでいく。

支出面では、人件費は新規採用を含む所要額を計上するが、非専任職員、外部委託の活用等により抑制に努める。また、物件費については、既存事業の組み替えを進めた上での学長裁量経費の拡充など、重点事業項目を中心に予算措置を講じる一方、特に施設維持管理業務では委託業務内容や株式会社同志社エンタープライズとの契約形態見直しにより経費の抑制を図る。さらに、教育研究費については、教育環境改善費予算および国際化戦略特別経費予算について、2017年度当時の入学定員を考慮して計上する一方、繰越予算の積極的活用を図る。加えて、第3号基本金による事業では資産運用収入配分見込額に留意し、将来計画のための第2号基本金の充実や危機対応のための準備金の設定にも取り組む。

なお、経常勘定では依然として支出超過の改善が喫緊の課題である。教育研究環境の維持・充実に取り組むための財源については、学費支弁者の負担だけではなく既存事業の見直し等の収支改善策も進め確保する。については、教育研究費に係る積算基準の一部マイナスシーリングおよび経常的経費のゼロシーリングを引き続き実施するとともに、維持運営費の一部マイナスシーリングを新たに実施し、さらに過年度の予算執行状況を精査し、予算の効率的活用を検証の上、予算を編成する。また、大規模建設事業については、中・長期的な施設設備整備計画に基づき、その他既存の施設設備の整備については、緊急性の高い事業について優先的に予算を計上する。

以上の方針のもと、予算における計画性を重視し、限られた財源を効率的に配分することを大原則として2018年度予算を編成する。

財務部 経理課

同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金のご案内

本学は創立 150 周年を迎える 2025 年に向けて「躍動する同志社大学」をコンセプトに「同志社大学ビジョン 2025」を掲げ、ビジョン推進のため「同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金」を立ちあげました。本募金事業では、中長期ビジョン推進はもとより、経常的な取り組みである奨学金給付や課外活動支援、施設設備整備に対する募金活動の展開も行います。本学の教育理念と募金事業にご理解をいただき、より一層の温かいご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。



総長・理事長 八田 英二



学長 松岡 敬

募集要項

募 集 期 間：2017年10月1日～2026年3月31日

目 標 額：50億円

募 集 単 位：個 人 1口 1万円
法人・団体 1口 10万円

※1口あたりの金額を設定しておりますが、金額に関わらずありがたく頂戴いたします。継続的なご支援を賜れましたら幸いです。

税制上の優遇措置：個 人 特定公益増進法人または税額控除対象法人による減税措置
法人・団体 特定公益増進法人または受配者指定寄付金制度による減免税措置

「同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金」対象事業

リーダー養成プログラム運営支援

グローバル化の促進支援

高大接続プログラムの展開支援

特定寄付奨学金

育英型奨学金

スポーツ活動充実資金

文化系公認団体活動充実資金

今出川校地新図書館建設

新たな学生寮建設

用途は特定しない

寄付の申込方法

●インターネットによるお申込みの場合

ALL DOSHISHA 募金サイト

<https://bokin.doshisha.ed.jp/2025alldoshisha/>

または

●お振込みの場合

お手数ですが、下記のお問い合わせ先にご連絡ください。資料をお送りさせていただきます。

スマホからのご寄付も可能です



寄付者への顕彰制度

寄付者の皆さまのご支援に対しまして、独自の顕彰制度を設けております。詳しくは ALL DOSHISHA 募金 WEB サイトよりご確認くださいませよう、お願いいたします。

お問い合わせ先 学長室 募金課 TEL：075-251-3230 Email：ji-bokin@mail.doshisha.ac.jp



新任教員紹介

授業科目を担当する専任教員を紹介します。
①所属(学科/専攻) ②職名 ③主な担当科目



水ノ江 和同
(ミズノエ カストモ)
①文(文化史) ②教授
③考古学概論(1)



城地 孝
(ジョウチ タカシ)
①文(文化史) ②助教
③東洋史特論(1)



岸本 廣大
(キシモト コウタ)
①文(文化史) ②助教
③オリエント・西洋古代史(1)



林 麗婷
(リン レイテイ)
①文(国文) ②助手



榎田 竜蔵
(クツワタリウゾウ)
①社会(社会) ②准教授
③地域社会学



奥井 遼
(オクイ ハルカ)
①社会(教育文化) ②助教
③言語教育文化論(1)



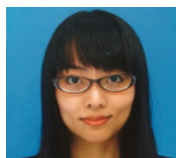
望月 詩史
(モチヅキ シヰミ)
①法(政治) ②准教授
③政治思想入門



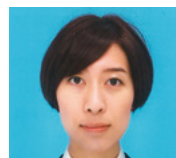
山田 慧
(ヤマダ サトシ)
①法(法律) ②助教
③刑法概論



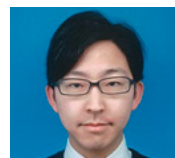
村田 陽
(ムラタ ミナミ)
①法(政治) ②助教
③政治学入門



奥田 菜津
(オクダ ナツ)
①法(法律) ②助教
③リーガル・リサーチ



佐藤 由梨
(サトウ ユリ)
①法(法律) ②助教
③刑事手続法概論



仲北浦 淳基
(ナカキタウラ ジュンキ)
①経済(経済) ②助教
③基礎演習



卫 娣
(エイ テイ)
①経済(経済) ②助教
③基礎演習



佐藤 誠二
(サトウ セイジ)
①商(商) ②教授
③財務諸表論



山本 達司
(ヤマモト タツシ)
①商(商) ②教授
③財務諸表分析



野田 遊
(ノダ ユウ)
①政策(政策) ②教授
③地方自治論



服部 篤子
(ハットリ アツコ)
①政策(政策) ②教授
③ソーシャル・イノベーション
の理論と技法



伊藤 理史
(イトウ リシ)
①政策(政策) ②助教
③政策学入門



孫 昊
(ソン コウ)
①文化情報(文化情報)
②助手



笹田 昌弘
(ササタ マサヒロ)
①理工(機械システム工)
②教授 ③材料加工II



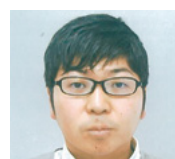
小武内 清貴
(オブナイ キョウタカ)
①理工(機械システム工)
②准教授 ③材料力学I



関 穰慶
(セキ シゲアキ)
①理工(環境システム)
②准教授 ③物理学I



桂井 麻里衣
(カツツイ マリエ)
①理工(インテリジェント情報工)
②助教 ③応用数理統計学



木村 共孝
(キムラ モトタカ)
①理工(インテリジェント情報工)
②助教 ③情報セキュリティ



新庄 雅斗
(シンジョウ マサト)
①理工(電子工) ②助教
③解析学I



祝迫 恵子
(イワイサコ ケイコ)
①生命医科(医生命システム)
②教授 ③外科学概論



貞包 浩一郎
(サダカネ コウイチロウ)
①生命医科(医情報)
②准教授 ③物理学基礎



Mamun Or Rashid A N M
(マムン オール ラシッド エー・エヌ・エム)
①生命医科(医生命システム)
②助手



加藤 久詞
(カトウ ヒサシ)
①スポーツ健康科(スポーツ健康科)
②助手



大屋 藍子
(オオヤ アイコ)
①心理(心理) ②助教
③行動分析学



尾崎 茂
(オザキ シゲル)
①グローバル地域文化
(グローバル地域文化) ②教授
③グローバル地域文化導入セミナー



金 鍾徳
(キム ジョンドク)
①グローバル地域文化
(グローバル地域文化) ②准教授
③コリア語・インテングVVI



殷 文怡
(イン ブンイ)
①グローバル地域文化
(グローバル地域文化) ②准教授
③中国語インテングVVI



Matthew Kamden BARBEE
(マシュー キャンデン バービー)
①グローバル地域文化
(グローバル地域文化) ②助教
③イングリッシュ・ワークショップI



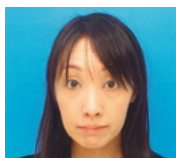
村田 雄二郎
(ムラタ ユウジロウ)
①グローバル・スタディーズ研究科
(グローバル・スタディーズ) ②教授
③近現代の中国



Seifudein ADEM
(セーフディン アダム)
①グローバル・スタディーズ研究科
(グローバル・スタディーズ) ②教授
③グローバル政治経済



井上 福子
(イノウエ フクコ)
①ビジネス研究科(ビジネス専攻)
②教授 ③人の資源管理



奥平 寛子
(オクヒラ ヒロコ)
①ビジネス研究科(グローバル
経営研究専攻) ②准教授
③Business Economics



成生 達彦
(ナリウ タツヒコ)
①ビジネス研究科(ビジネス専攻)
②特別客員教授
③ミクロ経済分析



沖田 悟傳
(オキタ ノリツグ)
①免許資格課程センター
②教授 ③学校経営と法規



阿部 亮子
(アベ リョウコ)
①研究開発推進機構及び法学部
②助教 ③政治学I



福田 実奈
(フクダ ミナ)
①研究開発推進機構及び心理学部
②助教
③心理学実験演習(上級)



黄 琬茜
(コウ ワンセン)
①社会学研究科(教育文化学)
②助手



大谷 実
(オオタニ ミノル)
①経済(経済)②助教
③基礎演習



吉沢 晃
(ヨシザワ ヒカル)
①政策(政策)②助教
③アカデミック・スキル



榎原 絵里奈
(マキハラ エリナ)
①理工(インテリジェント情報工)
②助教③CプログラミングII



白井 真理子
(シライ マリコ)
①心理(心理)②助教
③心理学特論



李 凱航
(リ ガイコウ)
①グローバル・スタディーズ研究科
(グローバル・スタディーズ)②助手



永野 茜
(ナガノ アカネ)
①研究開発推進機構及び心理学部
②助教③心理学実験(1)

退職教員

2018年3月31日付で、次の先生方が退職されました。

■ 神学部 富田 健次 教授

■ 文学部 石坂 尚武 教授
松藤 和人 教授
中井 義明 教授
岡林 洋 教授

■ 社会学部 鯨坂 学 教授
井上 智義 教授
阿部 康人 助教

■ 法学部 出原 政雄 教授
瀬川 晃 教授
富沢 克 教授
石橋 英典 助教

■ 経済学部 川越 修 教授
清川 義友 教授
笠井 高人 助教

■ 商学部 高井 紳二 教授
上田 慧 教授

■ 政策学部 阿部 茂行 教授
木場 紗綾 助教
清水 習 助教

■ 文化情報学研究科 陳 艷艷 助手

■ 理工学部 藤井 透 教授
水島 二郎 教授
坂東 敏博 准教授
間 博人 助教

■ 理工学研究科 Muhammad RIFAI 助手

■ 生命医科学部 萩原 明於 教授

■ スポーツ健康科学部 田阪 登紀夫 教授

■ 心理学部 鈴木 直人 教授
菊谷 まり子 助教

■ グローバル地域文化学部 井田 琇穂 教授
張 軼欧 准教授
Shaun A. Gates 准教授

■ グローバル・スタディーズ研究科 加藤 千洋 教授
今井 ナタニエル アゴラ 准教授

■ ビジネス研究科 Adam Lucas JOHNS 准教授

■ 人文科学研究所 庄司 俊作 教授

■ 学習支援・教育開発センター 岡部 晋典 助教

■ 日本語・日本文化教育センター 荒井 美幸 助教
築山 さおり 助教

■ 研究開発推進機構 南 友二郎 助教
伴 碧 助教
大澤 香 助教
山崎 晴彦 助教
船木 理悠 助手
木村 年晶 助手
佐古 麻理 助手
高藤 大樹 助手
手塚 沙織 助手
山本 晋平 助手

■ 高等研究教育機構 Idiris DANISMAZ 助教



「同志社大学カード／同志社大学学生カード」の会員を募集しています!

同志社大学では、創立 150 周年を迎える 2025 年に向けて「同志社大学 VISION2025」を推進し、創造と挑戦を続けています。このたび、学生や卒業生・教職員など本学にかかわる方々の愛校心に応え、同志社大学ブランドの象徴となる「同志社大学カード／同志社大学学生カード」の会員募集を開始いたしました。

〈カード概要〉

名 称	同志社大学学生カード	同志社大学カード	
対 象	在学学生 (同志社生活協同組合員である正規学生)	卒業生及び専任教職員	
種 類	学 生	クラシック	ゴールド
デザイン			
年会費	在学中無料	1,250 円＋税	10,000 円＋税

両カードは、本学が三井住友カード株式会社（以下：SMCC）と提携して発行する本学公式のクレジットカードです。

同志社大学カードは、ご利用頂いた金額に応じて、手数料が SMCC から本学に還元されます。本学では、この手数料全額を在学学生への奨学金として活用いたします（カード会員の皆様に手数料をご負担頂くことはありません）。

卒業後も末長く母校とつながり続ける証しとして、また在学学生を温かく支援するツールとして活用頂けるよう、今後もカードサービスを充実して参ります。

同志社大学学生カードは、利用可能枠を低く抑え、旅行傷害保険やお買物安心保険のサービス機能も付いています。留学や海外旅行をはじめ、キャンパスライフの頼もしい味方として安心してご利用頂けるカードです。

両カードの詳細（特典や最新情報を含む）は、右記の HP でご確認ください。

同志社大学カード／同志社大学学生カード HP
<https://www.doshishacard.jp/>



特定寄付奨学金募金 協力者ご芳名

経済的理由で修学を続けることが困難になっている学生を援助するために、2004 年 4 月から「同志社大学特定寄付奨学金募金」を広く社会各界に呼びかけています。

2018 年 1 月末までに、卒業生、ご父母、一般の方々および教職員から下記の通りご協力をいただきました。

2017年4月～2018年1月の申込者

	申込件数	申込額
卒業生・ご父母・一般	19件	740,000円
教職員	42件	1,428,000円
合 計	61件	2,168,000円

ご芳名（敬称略、順不同）

【卒業生、ご父母、一般】

100,000円 安田 徹
10,000円 小田 邦宏 山中 光太郎
山下 文憲

ご芳名のみ（金額非掲載）

高井 衛 板谷 雅之 大森 光則
越智 昭彦 竹下 翔平 田村 稔
三上 保孝 野口 劬 三上 幸治
鈴木 雄二 富岡 努 兵頭 俊彦

210,000円（匿名合計） 匿名3人

【教職員】

60,000円 北 寿郎 徐 啓和
30,000円 石田 修一 植村 巧
西川 真司
20,000円 吉川 健
6,000円 北 幸史

ご芳名のみ（金額非掲載）

阪田 清 藤井 邦宏 浜中 邦弘
新 茂之 富田 安信 林 克樹
三好 博昭 南 篤志 森田 佳世子
岡本 由美子 加藤 恒夫 中村 拓也
酒井 優 島田 雄二 宮本 佳奈

654,000円（匿名合計） 匿名20人

※2017年10月以降の教職員からのご寄付については、同志社大学2025 ALL DOSHISHA 募金事業の「特定寄付奨学金」として受付しておりますので、ご芳名には含まれておりません。

当募金は同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金事業として行っていますので、引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】 財務部 資金課 TEL:075-251-3150 E-mail: ji-sikin@mail.doshisha.ac.jp

本学教員の執筆図書紹介

図書館調べ(価格は税別)

変革期のモノづくり革新

鈴木良始 他 著 中央経済社 3,400円

新・注解特許法 第2版 中巻

井関涼子 他 著 青林書院 18,000円

日中民事訴訟法比較研究

川嶋四郎 他 著 九州大学出版会 9,000円

音響学入門ペディア

飛龍志津子 他 著 小山大介 他 編集委員
コロナ社 2,600円

ムダな仕事が多い職場

太田肇 著 筑摩書房 760円

コーパスと多様な関連領域

伊藤紀子 他 著 ひつじ書房 3,200円

代数学入門

川口周 著 日本評論社 2,300円

華僑 華人

森川眞規雄 他 著 東方書店 1,845円

宗教改革と現代

村山盛葦 中野泰治 村上みか 他 著
新教出版社 2,200円

新注釈民法 17 親族 1

神谷遊 他 著 有斐閣 8,200円

沖縄にみる性暴力と軍事主義

秋林こすえ 他 著 御茶の水書房 2,200円

浮世草子大事典

神谷勝広 他 編 笠間書院 20,000円

室町幕府将軍列伝

山田徹 他 著 戎光祥出版 3,200円

商法判例集 第7版

山下友信 他 編著 白井正和 他 著
有斐閣 3,200円

グリーンソーシャルワークとは何か

上野谷加代子 他 監訳
上野谷加代子 南友二郎 野村裕美 他訳
ミネルヴァ書房 5,000円

教育思想事典 増補改訂版

小野文生 他 著 勁草書房 7,800円

流体力学

水島二郎 他 著 森北出版 3,200円

ゲームの面白さとは何だろうか

原田隆史 他 著 慶應義塾大学三田哲学会 700円

税務会計学辞典 新版

田中治 他 著 中央経済社 5,200円

文章を科学する

長谷部陽一郎 他 著 ひつじ書房 2,600円

生理心理学と精神生理学 第Ⅱ巻 応用

鈴木直人 他 編 畑敏道 他 著
北大路書房 4,600円

「稼得とケアの調和モデル」とは何か

田中弘美 著 ミネルヴァ書房 6,500円

楽しむ

佐伯順子 他 著 現代書館 2,300円

11の国のアメリカ史 上

肥後本芳男 他 訳 岩波書店 2,900円

11の国のアメリカ史 下

肥後本芳男 他 訳 岩波書店 2,900円

核開発時代の遺産

和田喜彦 他 著 昭和堂 3,500円

進化する妖怪文化研究

西川貴子 他 著 せりか書房 5,800円

レイチェル・カーソンに学ぶ 現代環境論

新川達郎 他 編著 法律文化社 2,600円

二つの宗教改革

村上みか 他 訳 教文館 3,500円

吟遊詩人

稲本健二 訳 現代企画室 2,400円

臨床教育学

小野文生 他 著 協同出版 2,200円

ワーク・ライフ・バランスと経営学

中村艶子 他 編著 ミネルヴァ書房 2,800円

勝てる脳、負ける脳

小林耕太 他 著 集英社 740円

信託法制の新時代

佐久間毅 他 著 弘文堂 4,000円

アメリカの刑事判例 1

洲見光男 他 著 成文堂 4,500円

コーポレート・ガバナンス改革の国際比較

今西宏次 他 著 ミネルヴァ書房 3,000円

自己と他者

中村拓也 訳 晃洋書房 3,900円

有斐閣判例六法Professional 平成30年版

山下友信 他編 有斐閣 5,500円

解体後のユーゴスラヴィア

月村太郎 編著 晃洋書房 4,300円

経済理論・応用・実証分析の新展開

佐竹光彦 牧大樹 他著
中央大学出版部 4,100円

人権条約の解釈と適用

坂元茂樹 著 信山社 7,600円

カーボンが創る未来社会

平山朋子 他 著 丸善ブラネット 1,400円

実務 交通事故訴訟大系 第2巻 責任と保険

山下友信 他 著 ぎょうせい 18,000円

日韓交渉 新装新版

太田修 著 クレイン 3,500円

世界の暦文化事典

中西久枝 他 著 丸善出版 12,000円

憲法で読むアメリカ現代史

阿川尚之 著 NTT出版 2,500円

やさしい生理学 改訂第7版

井澤鉄也 他 著 南江堂 2,600円

子どものための里親委託・養子縁組の支援

横田光平 他 著 明石書店 2,400円

華僑華人の事典

王柳蘭 他 著 丸善出版 20,000円

軍記物語の窓 第5集

山本晋平 著 和泉書院 12,000円

実務精選100 交通事故判例解説

野々村和喜 他 著 第一法規 3,200円

講座 実務家事事件手続法 上

岡田幸宏 他 著 日本加除出版 8,000円

JSDAキャピタルマーケットフォーラム(第1期)論文集

白井正和 他 著 日本証券業協会

公共部門のガバナンスとオンブズマン

山谷清秀 著 晃洋書房 2,800円

判例行政法入門 第6版

小谷真理 他 著 有斐閣 2,000円

「慰安婦」問題と未来への責任

板垣竜太 他 編著 大月書店 2,400円

刑法各論判例50!

十河太郎 他著 有斐閣 1,800円

政治学

大矢根聡 他 著 有斐閣 2,000円

大改正時代の民法学

深谷格 他 編著 成文堂 15,000円

条解信託法

佐久間毅 他 著 弘文堂 15,000円

知財の正義

山根崇邦 他 訳 勁草書房 6,800円

ロボット制御学ハンドブック

積際徹 他 著 近代科学社 27,000円

嵐と風と不思議なマント

三木メイ 著 キリスト新聞社 1,500円

FinTechイノベーション入門

津田博史 監修 朝倉書店 3,200円

「日本人」は変化しているのか

池田謙一 編 池田謙一 他 著
勁草書房 3,500円

計量経済学の使い方 下 応用編

佐竹光彦 牧大樹 他 訳
ミネルヴァ書房 3,500円

責任と法意識の人間科学

木下麻奈子 他 著 勁草書房 4,800円

アメリカ文化事典

大矢根聡 岡野八代 菅野優香 寺田貴
肥後本芳男 藤井光 二村太郎 村田晃嗣 他 著
丸善出版 20,000円



WEBでCHECK!

課外活動総合WEBサイト「D-Live」

今すぐ
アクセス!

同志社 dlive

検索

<http://www.d-live.info/>



「D-Live」では、学生団体の活動やイベントの最新情報をご紹介します。
ぜひアクセスして日程をご確認のうえ、応援やイベントへご参加ください。

DOSHISHA SPORTS

体育会をはじめとした公認団体・登録団体の
クラブ紹介や試合の日程をご覧ください。



学生支援センター

学生支援センターが主催する各種プログラムやイベント・セミナー
の最新情報および学生支援の概要、課外活動でご利用いただけ
る施設紹介などをご覧ください。

DOSHISHA CULTURE

文化系公認団体・登録団体のクラブ紹介や
活動の予定をご覧ください。



参加者募集

ボランティア支援室学生スタッフ
ARCO募集!

▶ <http://volunteer.doshisha.ac.jp>

障がい学生支援制度
サポートスタッフ大募集!

▶ <http://challenged.doshisha.ac.jp>

ローム記念館
プロジェクトメンバー募集!

▶ <http://rohm.doshisha.ac.jp>

第36回函館キャンブ
参加者募集!

詳細はHPでお知らせいたします。

安中・会津キャンブ
参加者募集!

▶ <http://www.christian-center.jp>



同志社大学公式 Facebook
<https://www.facebook.com/doshisha.university>



同志社大学公式 twitter
https://twitter.com/DoshishaUniv_PR



水谷 嘉浩 さん
〔1993年 文学部社会科学科社会福祉学専攻 卒業〕坂本 奈月 さん
〔商学部 3年次生〕

避難所の景色を変える！命を守る「^{だん だん}暖段はこベッド」を開発・普及推進
Jパックス株式会社 代表取締役社長

水谷 嘉浩さんに聞く

東日本大震災の避難所で雑魚寝生活による2次健康被害が多発していることを知り、
自社の段ボールを活用して断熱性に優れた「暖段はこベッド」を開発。
その普及を推進するために、全国の自治体との防災協定締結に全力を注いでいます。

今回の同志社人

水谷 嘉浩 さん

〔1993年 文学部社会科学科社会福祉学専攻 卒業〕

みずたに・よしひろ 大阪府出身。2004年にフクワ紙器工業株式会社を父親から引き継ぎ、代表取締役に就任。2008年に社名を現在のJパックス(株)に変更。事業拡大を図りながら、「暖段はこベッド」普及活動による被災地支援に積極的に取り組んでいる。

今回のインタビュー

坂本 奈月 さん

〔商学部 3年次生〕

さかもと・なつき 群馬県出身。商業高校での学びを深めるために、商学部を選択。国際的な先端企業の事例を研究する佐藤研一准教授のゼミなどを通じて、企業経営に強い関心を抱くようになったという。1年次生の時から本学最大のボランティアサークルであるASUVID(アスピッド)今出川に所属し、現在サークルの会長を務めている。

約5分で完成し機能性も抜群 7トンの重量に耐える仕様

坂本 「暖段はこベッド」を開発された経緯を聞かせてください。

水谷 2011年3月11日に東日本大震災が発生した時、私は出張で東京の墨田区にいました。実に恐ろしい体験でした。その夜、宿泊先のテレビで国内観測史上最大といわれる大津波の映像を見て愕然とし、「大変なことになった。何かしなければ…」と思い立ち、3日後に食料や毛布を被災地に届けました。しかし、この程度の支援では「焼け石に水」といった状況です。「もっと何かできないのか…」

と考えていた矢先に、避難所で被災者の方々が病に倒れ、亡くなっておられることを知ったのです。「地震や津波の被害から辛くも逃れ、生き残ることができたのに、なぜ避難所で命を落としてしまうのか」と驚きました。その原因は過酷な雑魚寝生活による低体温症やエコノミークラス症候群などの2次健康被害だったのです。そこで、閃いたのが当社が扱っている段ボールを用いた簡易ベッドの開発です。大急ぎで試作品を仕上げてツイッターで打診すると、宮城県石巻赤十字病院の医師の方から「すぐに届けてほしい！」というご依頼があり、4トン車に200台の完成品を積



み込んで駆け付けました。3月20日に着想し、出向いたのは4月1日です。その後、セツカートン株式会社(兵庫県伊丹市)と共に計2,800台を無償提供させていただきました。

坂本 この簡易ベッドの仕様や特徴を教えてください。

水谷 段ボール製の枠に24個の段ボール箱(中に強度を高めるための段ボールの筋交い)をはめ込み、その上にパーテーションにもなる段ボール製の天板を被せるというシンプルな仕様です。平面で約7トンの重量に耐え、5年以上活用している事例もあります。また、ベッドを構成する個々の段ボール箱には衣類や生活雑貨などを収納でき、貴重品の保全にも役立ちます。各段ボール箱に必要なものを入れたままで速やかに運ぶことができるので、仮設住宅への移転の場合も非常に便利です。組み立ても簡単で、現場で初めて作業をされるボランティアの方々でも無理なく完成させることができます。工具は一切不要です。当初はガムテープを用いていましたが、改良を加えた結果、現在はガムテープも筋交いも必要ありません。作業に要する時間も15分から5分まで1/3に短縮できました。私自身も検証を兼ねて自宅で使用し

ていますが、実に快適です。避難所で過ごしておられる被災者の方々に届けると、表情が瞬く間に明るくなります。「こんな良いものなら、もっと早く欲しかった!」「ありがとう!明日からまた頑張れる」といったお言葉をいただくと、本当に嬉しい。この支援活動に取り組んで良かったと心から思っています。

「避難所は生活の場」という観点からTKBの完備を提唱

坂本 普及活動の現状や今後の目標などを聞かせてください。

水谷 「暖段はこベッド」を確実に供給できる仕組みを構築するために、全国段ボール工業組合連合会と連携して全国各地の段ボールメーカーとのネットワークづくりに取り組んでいます。2012年に意匠登録を行いました。普及促進における最大の課題は行政の対応です。ご理解を得るために努力を重ねてきましたが、まだ道半ばといった状況です。例えば、東日本大震災時には、「前例がない」という理由で「暖段はこベッド」の導入を拒否されるケースが多発しました。医師も同伴しているのに、避難



所の受付で断られるのです。目の前には何百人もの被災者の方々が底冷えのする体育館の床の上に雑魚寝しておられるのに、受け入れてもらえない。「雑魚寝は2次健康被害の要因になるので簡易ベッドを使ってください!」とお願いしても、駄目なのです。非常に落胆しました。

欧米では地震などの災害が起こった時には、24時間以内に避難者だけでなく支援者も含めた台数の簡易ベッドが届く仕組みができています。現在でも雑魚寝をさせているのは私の知る限りでは日本と韓国だけです。ここに避難所の風景を記録した写真が2枚あります。



1枚目(写真上)は1930年に発生した北伊豆地震時のもので、2枚目(写真下)は2016年に起きた熊本地震時に撮られたものです。いずれも雑魚寝の状態で、全く同じ写真に見えます。実に80年以上も何も変わっていない。驚くべき現実です。「行政は前例や仕組みが無ければ動かない」ということ



を実感し、これを教訓として各自治体との防災協定締結に取り組んできました。これまでに 300 以上の市区町村、29 都道府県と締結しています(2018 年 3 月現在)。内閣府の防災基本計画にも「簡易ベッドの整備に努める」という文言を加えてもらいました。このような活動が功を奏し、熊本地震では約 5,300 台を供給することができました。

現在、京都工芸繊維大学大学院で避難所の安全性や段ボールベッドに関する研究を行っています。有志と避難所・避難生活学会も立ち上げました。私たちは「避難所は生活の場である」という観点から「TKB:トイレ・キッチン・ベッド」の完備を提唱しています。例えば、イタリアでは避難所にキッチンカーが来ます。まるで機内食のように豪華で、ワインも出ます。トイレは広くシャワーもあります。これらは文化的な背景ではなく、2 次健康被害を予防する観点からなのです。「避難所の景色を変える」ことで災害関連死を予防する。これができるまで頑張ります。これは私のライフワークだと思っています。

社会に対してできることを常に考え続けてほしい

坂本 貴社の代表取締役になられたのは何歳の時ですか。

水谷 33 歳の時、2004 年の秋です。祖父が 1951 年に創業し、1969 年に父親が引き継ぎました。梱包用段ボール箱の製造メーカーです。私が社長

に就任した当時は、経営が厳しくどん底からのスタートでした。資金繰りに行き詰まった時に、祖母の積立貯金が満期になり、何とか急場を凌いだりしたこともありましたが、そうやっているうちに「これは背中を押してもらっている」と思うようになり、「潰れたら潰れたまでや」と居直ると、俄然やる気が出てきたのです。社名も日本に貢献する会社を目指し、現在の社名に変更しました。「J」はジャパンの頭文字です。最初の 10 年は社会貢献どころではありませんでしたが、「自社としてできることは、雇用を守り増やすこと」だと決意し、従業員全員を正規雇用して、定年も廃止。障害者の方々の雇用も積極的に行いました。また、子ども手当も他社より一桁多い毎月 2 万円を支給すると、社員の心にゆとりが生まれたのか、出産ラッシュが続きました(笑)。次代に向けて掲げている目標は「100 年企業・1000 人雇用」です。私が 80 歳の時に 100 周年を迎えます。

坂本 同志社大学の後輩へのメッセージをお願いします。

水谷 「ノブレスオブリージュ(仏: Noblesse oblige)」という言葉があります。地位や身分に伴う社会的な責任と義務があるという考え方です。後輩の方々にも、このような自覚を

持っていただきたい。同志社大学で学べるということは、素晴らしいことであり、恵まれた境遇にあるわけです。これに気づき、社会に対して何ができるのかを考え続けてほしいと願っています。具体的には自分の本分を活かすことが、最も効果的だと思います。例えば、避難所には小中高生もいますが、思うように勉強ができません。坂本さんのような大学生が避難所で家庭教師をしてあげれば、本人もご家族も喜ばれるはずです。菓子職人の方々が目の前で手づくりした和菓子を振る舞うと、人が集まり、会話が弾み、場が和みました。写真家の方はアルバムを復元するボランティアに取り組み、感謝されました。在学生の方々も、就職後は個々の仕事の分野を活かした支援活動をすれば、大きく貢献できると確信しています。



J パックス株式会社
大阪府八尾市太子堂 2-5-38
TEL: 072-923-1388
「TEDx Talks」に出演。「水谷嘉浩」で検索!

インタビューを終えて



自らの仕事の分野を活かして社会に貢献する。その生き方に大きな学びを得ました。

インタビューー
坂本 奈月 さん
【商学部 3 年次生】

会社の代表取締役を務めながら被災地支援にも果敢に取り組んでおられる水谷嘉浩さんのような企業人の方にお会いしたのは初めてです。東日本大震災の直後に独創的な「暖段はこベッド」を開発し、直ちに被災地に届けられた発想力と行動力に感嘆しましたが、それ以上に被災者の方々の困難な避難所での日々を自身のここのように感受し、2 次健康被害を防ぐために簡易ベッドの普及に現在も全力を注いでおられる姿に感銘を受けました。自らの仕事の分野を活かして社会に貢献するという生き方そのものに、大きな学びを得ることができました。これからの歩みの貴重な糧にしたいと思っています。

My Job, My Life

第77回

私と「仕事」

学生時代からの夢を追いつけ、多彩な分野で活躍する卒業生を訪ね
仕事に挑む熱い思い、今後の目標などをインタビュー。
その姿が学生の皆さんの将来のキャリア・プランに役立てば幸いです。



きた むら まさ き
北村 政記さん

[2004年 文学部国文学科卒業]

病児保育・病後児保育 認定NPO法人ノーベル
ファンドレイザー

子育てと仕事を両立させるために地域密着型の病児保育を支援し ひとり親家庭の子どもを危機から守るプロジェクトを推進。

大学卒業後、東京に本社を置く㈱ベネフィット・ワンに入社しました。官公庁や企業の福利厚生業務の運営代行サービスを行い、拡大し続けている会社で、就職活動時に志望していた自身の成長に直結する企業だと確信したからです。今日の活動につながる最初の誘因になったのは2010年に開催された「第1回ファンドレイジング日本」への参加です。当時、より良い社会を創出するための課題を事業によって解決していく社会起業家に注目しており、これがイベントに赴く動機になりました。この時、初めてファンドレイジングの具体的な活動内容を知り、強い関

心を抱きました。狭義には寄付を中心にした民間非営利団体(NPO)などの資金調達活動であり、広義には掲げた目的に賛同し、協力してくれる仲間を広く集める行為の総称です。新たな一歩を踏み出す決定的な契機になったのは、同年に起こった「大阪2児餓死事件」でした。母親の育児放棄によって大阪市内のマンションの一室で2人の幼児が餓死した事件です。「なぜ、このような悲惨なことが起こるのか」という沈痛な思いに心を突き動かされたのです。

㈱ベネフィット・ワンを退職した後、地元の関西に戻り、大阪で共済型病児

保育事業を開始していた認定NPO法人ノーベルの高重希代表を訪ね、2011年からボランティアとして活動に参加し、「850kmチャリティマラソン」を自主企画しました。毎日(平日)5kmを走り、寄付金全額をひとり親支援活動の立ち上げに供すると宣言し、クラウドファンディングを活用して100万円の寄付を集めました。2013年に専属ファンドレイザーに就任し、ひとり親家庭の子どもを危機から守るプロジェクト「ひとりおかんっ子応援団」を担当しています。例えば、大阪のひとり親家庭は7万世帯以上もあり、その約9割は母子家庭で、大半が生



活の安定しない非正規雇用です。子どもの急病による欠勤が続くと、解雇のリスクが高まり、失職は生活苦に直結します。この現状を改善するために、応援団になっていただいた方々のご寄付を財源に、通常の半額以下、月会費1,000円で病児保育支援を実施、これまで約150人のひとり親サポートを実現しています。このような活動が評価され、2014年に受賞した日本青年会議所「第28回人間力大賞」、「まちづくり市民財団奨励賞」も、大きな励みになっています。

認定NPO法人ノーベルは「子どもを産んでも当たり前働き続けられる社会」の実現を目指し、病児保育事業を中心に展開しています。法人設立は2009年です。保育園では37.5℃以上の発熱があると預かってもらえません。しかし、例えば大阪市の病児保育施設はわずか12施設(2017年1月現在)しかありません。社会的なインフラが整備されていないのです。その理由は経営が安定しないからです。子育てと仕事を両立させるために、病児保育は必要不可欠なのですが、圧倒的に不足しているのが現状です。地域密着型の病児保育を支援するために、認定NPO法人ノーベルでは当日朝8時までにご予約いただければ、100%対応を保証しています。病児保育スタッフがご自宅に伺い、お子様のケアにあた

ります。インフルエンザなどの感染症にも対応し、医院への受診代行(一部地域除く)も行い、受診結果は会員専用サイトでご報告しています。システムは月会費制の共済型で、入会手続きはオンラインで完結可能です。最短3日でご入会いただけます。また、子育て経験のみでも勤務可能な病児保育スタッフに対しては座学研修、実務研修、ケース研修、外部講師による講習会などを実施し、安全で安心していただける病児保育の徹底化を図っています。

現在、新たに目指しているのは「遺贈寄付」の体制構築です。個人が亡くなった時に、遺言等によって財産を民間非営利団体などに寄付することです。例えば、「自分は子どもを授からなかったけれども、次代の子どもたちのために遺産を活かしたい」と遺言していたければ、画期的な子育ての支援財源になります。このような社会貢献の仕組みを実現したいと願っています。

大学時代の一番の学びは「自分の生き方の軸」を見出すことができたことです。三浦綾子さんの青春時代の自伝『道ありき』を読み、彼女の闘病の日々を見守り、励まし続けて絶望の淵から救い出し、早世した前川正さんの姿に、人のために命を使う事の尊さを学びました。同志社の後輩の方々にも、在学中に自己の心の確かな基軸になるものを探り当ててほしいと願っています。

One day on the job



🕒 10:00
パソコンの
メールチェックで
1日がスタート。



🕒 15:00
本学卒業生の
八木早希さんと
大阪マラソンの
イベントに登壇。



🕒 18:00
寄付者や応援者と
ランニング&懇親会
イベントを実施。



📅 土・日
講演を通じて
寄付市場全体の
底上げに尽力。



プライベート
娘と過ごす時間が
愛おしく、
日常で最も
大切なひととき。

COVER INTERVIEW My Purpose 挑戦する人



国内屈指のイベント「金沢アカペラ・タウン2017」で アカペラサークル「One Voices」所属のバンド「高飛車」が グループ賞で金賞、個人賞でベストパーカッショニスト賞を受賞

アカペラの語源はイタリア語の「ア・カペラ (a cappella)」。「礼拝堂風に」を意味し、楽器の伴奏がない合唱曲や重唱曲の様式として定着した。中平大翔さんがこの音楽スタイルに興味を持ったのは、7歳年上の兄のライブステージを観た小学校高学年の時だった。その後、テレビの学生コンテスト番組「全国ハモネプリーグ (略称: ハモネプ)」を視聴して魅了される。当時、特に憧れたのはプロのアカペラグループとして大活躍していた「RAG FAIR (ラグフェア)」のボイスパーカッションのおっくん (奥村政佳)。その抜群の上手さに圧倒され、夢中になったという。同志社大学に進学した春、アカペラサークル「One Voices」に入部し、念願の活動を開始する。1999年に創部し、数多くの部員を擁して多彩なライブを学内外で行い、他大学との交流も積極的に試みている関西有数のアカペラサークルである。「みんなアカペラが大好きで参加しているので、すぐに打ち解け、仲間の輪が広がった」と当時をふり返る。

バンドは5〜6人の編成でリード、コーラス、ベース、ボイスパーカッションで構成する。中平大翔さんが担うのはボイスパーカッションである。文字通り、ボイス (声) でパーカッション (打楽器) を巧みに表現するという難度の高いパートである。「“ボイバ”を選んだのは、やはり『おっくん』の影響です。バンドではドラムの位置になります。例えば、ドラマーは両手と両足で音を出します。“ボイバ”は口だけなのでこれが非常に難しい。センスだけではこなせない。何よりも高度な技術が問われます。それだけに、大きな魅力を感じるパートです」。

今回の栄冠につながったバンド「高飛車」を結成したのは、中平大翔さんが理工学部3年次生の2015年11月だった。他のメンバーは全員2年次生の6人編成。「彼らが誘ってくれたのです。それまで組

んでいたバンドは間もなく解散する予定だったので、声がかからなければ、そのまま活動をやめていました。結果的に後輩に拾ってもらったということになりますね (笑)。「高飛車」のモットーは「最高の臨場感・圧巻のステージー一人ひとりが主役」。ライブで観客を圧倒的に魅了することを目指す。

「高飛車」が挑んだ「金沢アカペラ・タウン2017」は、アカペラによる芸術振興と出演者同士の交流、金沢の活性化を目的に開催される国内でも最大のアカペライベントであり、8回目を迎えた昨年は8月26日 (土)・27日 (日) に実施された。プログラムは金沢市内中心部で一斉に行われる「ストリートステージ」、全国に羽ばたくための登竜門となる「金沢アカペラ・コンクール」、金賞・銀賞を得たアマチュアグループとプログループが出場する「ファイナルステージ」で構成されている。総観客数32,250人を記録したこのイベントで、「高飛車」はグループ賞で金賞、個人賞でも中平大翔さんがベストパーカッショニスト賞を受賞した。さらに、金沢アカペラ・コンクール金賞グループが日本代表として派遣される海外の大会「Hong Kong a cappella International Contest2017」にて優勝も果たした。「前年度は様々な大会で敗退しており、この年がバンドとしてのラストイヤーだったので、泣くほど嬉しかった。最高のメンバーに心から感謝しています。永遠の思い出になりました」。

理工学研究科に在籍する中平大翔さんの次の目標は、IT分野のエンジニアとして活躍することだという。深く感銘し、心に刻んでいる言葉は坂本龍馬の名言である「世に生を得るは事を為すにあり」。「志を高く持ち、確かな足跡を残せる人になりたい」と将来を語る。



なか ひら たける
中平 大翔さん

[理工学研究科情報工学専攻 1年次生]